

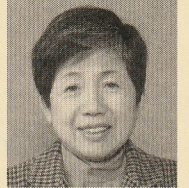
OSAKA・II ZONTA CLUB

大阪Ⅱ ゾンタクラブ第50号(2020年9月)



巻頭言

新会長(2020～2022) 幡山 玲子



COVID-19の世界的な感染爆発が収まりそうにありません。日本でも緊急事態宣言が解除されて以降感染者数が増加しつつあり、この先コロナ感染流行がどのように推移拡大していくのか予測がつきません。

去る3月8日、第25回チャリティイベントとして木谷悦子さんをお招きしてのクロマチックハーモニカコンサートを開催する予定でしたが、コロナ感染流行を受けて、中止という苦渋の決断をしました。あれから約4か月。国民がステイホームを余儀なくされ、軒並み行事や公演、スポーツ大会が中止となり、休業要請や県をまたいでの移動の自粛が要請されるなど社会経済活動が停滞するという事態が生じるとは、その時は予想だにしませんでした。

26地区のエリアミーティングがすべて中止となり、ローズデーに関連して計画されていた各クラブのイベントも軒並み中止や延期となりました。もちろん100周年を記念してのシカゴでの会員が参加してのゾンタ世界大会も中止となり、WEBによる開催となりました。

今まで大阪Ⅱゾンタクラブは、演奏会などのイベントを通じてゾンタクラブを知ってもらい、皆様からご芳志をいただいて、国内、国際に寄付を行ってきました。3密による感染リスクを避けるために社会活動が制約を受ける中で、食事を伴うイベントが、これまで通り開催できるのか、活動自体を変えていかなければならないのではないかと、いろいろ考えるべき問題点がたくさんあります。

ゾンタクラブは奉仕団体であると同時に近年米国ユニセフやUNFPAとともに国際プロジェクトとして児童婚の廃止等女性の社会的地位の向上や女兒の権利擁護を目指してアドボカシー活動も積極的に行っています。コロナ感染流行で、女性や子供たちが影響をもろに受け、より貧困に陥り、暴力の被害を受けるなど、手を差し伸べるべき事象が多く起こっています。この女性や子供たちに対する救済活動を強力に推し進めるためにも、ゾンタの女性や子供の人権を擁護する団体としての側面を積極的に皆様にご存知いただく活動もこれから必要になってくるのではないかと思います。

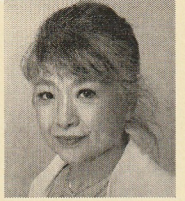
これからの社会はwith COVID-19で、働き方も人との接触方法も変わっていくことが予想されます。IT技術を駆使し、WEB会議を実施するなどコロナ感染のリスクを極力回避しつつ、ゾンタクラブの活動を行っていく必要があります。しかしこのような中でも、できる限り会員相互の対面でのコミュニケーションを図りつつ、楽しいクラブ運営を目指していきたいと思っています。これから2年間、非力な会長ではありますが、坂本副会長や、役員の方たちと力を合わせてクラブ運営に邁進したいと思っています。どうかご協力ご支援をよろしくお願いいたします。



2020年7月例会

100周年記念ZONTA CLUB 国際会議

内藤 恵子



コロナウィルスで、Chicago での開催が中止になり、大変残念でした。でも、次期会長、役員の選挙や、バイロース改正案、国際プロジェクト案の承認が、7月3日2時からインターネットで投票しました。前もって、立候補者の紹介、ビデオでは、日本語に吹き替えてありました。プロジェクトは、“ペルーの思春期女子の健康と保護”、“パプアニューギニアと東ティモールにおけるジェンダーに基づく暴力の生存者中心の対応の提供”、“マダガスカルを知ろう”“児童婚を終わらせる”について、結果報告と説明の資料がありました。

国際ゾンタ規約（バイロース）及び手続き法の改正案（1-35P）

パスワードを前回本部に教えてもらったのですが入れず、本部にメールしたらすぐメールが来て、パスワードなしで入れるサイトを送って下さいました。前もって、資料を読み、投票内容をチェックしておいたので、20分ほどで送れました。成功の返信を受け取り、前上田ディレクターにお電話で報告しました。1番ねと褒めてもらいました。皆様2年間ありがとうございました。木下ガバナーが国際理事になられますようお願いしています。

委員会報告

アドボカシー委員会報告

中田 智恵海



北京で1995年に開催された第4回世界女性会議において採択された行動綱領は5年毎に達成状況が検証されることになっており、2020年はその年度にあたります。2019年度はその直前の年度として「北京プラス25（ぺきんプラスにじゅうご）」を合言葉にこの行動綱領を指針として世界の女性と女兒のエンパワメントを目標に政府（内閣府男女共同参画局）、国際機関（国連、ユネスコ、ユニセフ）、NGOなどと共に協働して活発にその準備に取り組み、活動を展開しようとしてきました。2019年におけるアドボカシー委員会として顕著な活動は11月15・16日のトークセッションを上げておきます。主として以下の点に留意して活動してきました。

- ・児童婚を終わらせる
 - ・女性に対する暴力の廃止
 - ・人身売買の廃絶 ⇒ “Zonta Says No” He For She
 - ・女性性器切除廃絶
 - ・男女同一労働同一賃金の法制化推進
- 次に地域の活動例を以下に挙げておきます。

District 28

- 1) 女性を経済的に支援するためにバッグを販売
- 2) パネルディスカッション 高齢女性への虐待について
- 3) 11月25・26日教会や目立ったビルを“Orange the World”と称してオレンジ色にライトアップ

District 20 と 21

- 1) 児童婚を終わらせるための法制化に向けて市民を組織化、広報、イベントを開催
- 2) 基金集めのためのビエンナーレを開催
- 3) 暴力のために亡くなった女性の洋服を市役所正面に展示

このように2019年末までは順調に実施してきましたが、本年に至って新型コロナウイルスの影響を受け、3月9日に実施予定であった京都における女性のエンパワメント講演会、7月シカゴにおいて実施予定の2020年コンベンションも中止となり、急速に活動は低迷しました。

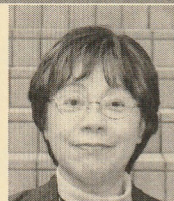
このコンベンションの基調講演者シェリル・ウ・ダン女史は、アジア系アメリカ人として初のピューリッツァー賞受賞者でもあり、ニューヨークタイムズ誌は「世界を震わせる150人の女性」の一人に挙げていますから、皆さまには大いに期待される講演会となったことを思うと中止は残念至極です。

一点、女性の地位向上を求めて署名運動が達成されたことは特筆しておきます。

また、それを補うべく本年3月にはオンラインによるトークセッションが開催され、今後の活動の在り方として注目されています。

「なにわ夫婦八景」

坂本 千代



大阪IIのメンバー、三林京子さん出演のお芝居を見るため、いっしょに切符を買った5名が2020年2月5日(水)に大阪の松竹座に集まりました。11時の開演前に着くと、他にもクラブ仲間が家族や友人と来ていました。私たちの席はA席で1階の5・6列の真ん中あたりととても良い場所でした。演目は「喜劇 なにわ夫婦八景(めおとはっけい) 米朝・絹子とおもろい弟子たち」。2015年に亡くなった上方落語の重鎮・桂米朝の若き日の恋愛、家族、弟子たちとのきずなを描いた人情物。米朝役は寛利夫、妻となる元歌劇スターの絹子を真琴つばさ、そして絹子の母親を三林さんが演じました。



幕があがるといきなりOSK(大阪松竹歌劇団)の華やかな踊りの場面で、それにうっとりしているうちにお話が始まります。太平洋戦争前後の上方演芸界の動きがテンポよく表現され、踊り、漫才、落語がちりばめられた舞台上、三林さんの演ずる、口調がきつくて少しへそ曲がりだけれど、思いやりと存在感のある「浪花の母」がとても印象に残りました。

お芝居の終了後、総勢7名で三林さんの楽屋をたずねることにしました。松竹座の裏手に回り、通用口でチェックを受けて、階段を下りたり、エレベーターで上がったりにして楽屋階(?)につきました。いくつもの部屋があり、差し入れの食べ物(?)が積み上げてあったり、お風呂場まであるのに驚きました。先ほどの舞台とは違って、髪をヘアバンドで止め、寛いでいる三林さんに会って、お芝居の感想・楽屋の印象を少しだけお話をしました。私たちの他にも、あとから面会の方がいらしたので、お邪魔したのは10分ほどでした。そのあと皆で梅田に戻り、デパートの喫茶室でコーヒーを飲みながらお芝居の感想などを語り合いました。

今回の観劇は本当に楽しく、また、大きな劇場の楽屋訪問は私には初めてでわくわくする体験でした。機会があればぜひまたゾンタの仲間とお芝居に行きたいと思います。

ウィズコロナ生活

コロナ禍の緊急事態宣言での生活

尼木 純子



緊急事態宣言を受けて国民全体が自粛した成果が出て諸外国の様な感染者の増加や医療崩壊を起さず緊急事態宣言撤廃へと漕ぎつけたことは、日本人として素晴らしい国民性を諸外国に誇って良いことと感じております。

私は透析クリニックの院長として透析患者様の治療にたずさわっているため自宅自粛は出来ずに自家用車にて勤務地に向かっていたのですが、道路はガラガラで通勤時間は平時の2/3位で到着出来、皆が要請を守りコロナ感染を広げないよう努力しているんだなぁと感慨深い思いで毎日の生活を送っていました。友人は退屈しないようにLINEで様々な面白い動画を送って下さり、人との繋がり大切さを改めて思い知ったコロナ禍自粛でした。

私のクリニックは80人強の患者様を診ておりワンフロアーに40人以上が一斉に透析治療を受けるという現状ですので、皆様腎不全は勿論のこと糖尿病などの様々な余病をお持ちの高齢者の患者様が大半なので、ひとたびクラスターを発生したら大変なことになるのは目に見えています。患者様の来院前検温とマスク着用アルコール四肢消毒を徹底し、何とか何事もなく普段の透析治療が出来ています。患者様の中に介護施設でマッサージを受けその施行者がコロナ感染と判明、マスク着用でのかかわりとはいえ、免疫力の低下した患者様ばかりのクリニックですので、その患者様だけ時間帯をずらし防御服とはいかないまでも、ナイロンガウンと昔鳥インフルエンザの時に買っていた自前のN95マスクで治療にあたりました。

今回インフルエンザの院内感染を防ぐためにも10月から院内全員マスク着用は必須としていましたので、その続きのコロナ予防で皆様大禍無く今のところ無事で過ごせていることがこの上なく嬉しく思っております。

ステイホーム

牛田 三千子



3月後半から約2か月、手帳はほぼ真っ白になり、ひたすらステイホームの日々でした。

ヒマなものですから、今まで見たことのないお昼のワイドショーのはしごをし、専門家の先生のご注意を拝聴し、感染者数の増減に一喜一憂し、吉村知事を応援する毎日でした。

一方、生活がルーズになってはいけないと毎日やるべきこと(換気、朝晩のストレッチ、20分程度の散歩、難問数独を1問解くこと)をノルマにして紙に書き壁に貼って、出来たら○をつけるというまじめな自粛生活を送りました。

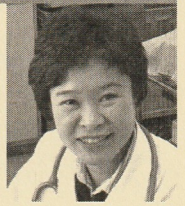
SNSがなければ、きっと退屈な毎日だっただろうと思いますが、幸い今は家族や友達とも毎日のように連絡を取り合うことができ、実際に会えなくても孤独になることはありません。

そのうち、農家や漁師さんが収穫したものをおろす先がなくて困っているというニュースが流れ、一助になればと港町からとれとれの魚をお取り寄せし、自分で捌くことにも挑戦しました。この機会に三枚おろしが出来るようにと、アマゾンで出刃包丁も買ってトライしてみましたがなかなか難しく、後始末も面倒でしたがまたやってみたくです。

最初はつらいと思っていた自粛でしたが、一日を自由に使い、楽しみを見出すことの出来るこの毎日、けっこう気に入っています。

母の日に思うこと

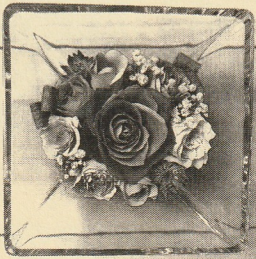
清水 聖保



コロナ禍で自粛生活からまだまだ気分は、明るくならない。勿論制限はなくなっても、予防を念頭に置き、いつもどこか楽しめないからだろう。テレビでもYou-Tubeでも大勢の方が、運動やマスク作り、さまざまな出来事を教えてくれている。自粛生活中に、丁度、母の日があった。テレビではカーネーションを栽培している方が、持って行き場のないカーネーションを本屋さんやビデオ屋さんの好意で入口で格安で販売していた。すると皆さん一輪、また一輪と買って帰られていた。普段ならお花など買わない男の人が、妻のために、病気の母のためにと次々に買って行かれてほんのり嬉しくなった。

人の輪は、小さなところから広がり小さな輪をしっかりと育む。

我が家でも娘のお花のプレゼントによって母の日を思い出した今年だった。



新型コロナウイルス感染禍で

笠置 伸子



1月20日ごろに中国の武漢で、「蝙蝠によって媒介された肺炎が流行しているらしい」と聞いていましたが、こんなにも私達の生活を左右するものになるとは想像もできませんでした。

私を大阪Iゾンタクラブのチャーターメンバーに推薦してくれたのは、大阪Iゾンタクラブの会員であった義母の伊藤幸子です。義母は1月30日の朝に恥骨骨折をして入院するまでは、93歳になっておりましたが、ヘルパーさんとお手伝いさんの助けを得て何とか気ままな一人暮らしを楽しんで生活していました。

入院して最初は体を動かすと痛がっておりましたが、次の日には動かさなければ痛くないと言って、とてもおとなしい患者でした。元気でしたが高齢だったのでこの際、会いたい人に面会に来ていただくと思って、「会いたい人はいませんか?来ていただくので!」と言いましたら、「貴女だけが来てくれたらいい、誰も会いたい人はいない」と言われ、1日1回だったのが、できる限り2回面会に行くようになりました。

そんな中、孫もひ孫もお見舞いに来て、またしばらくしたら来たらいいと思っていたら、コロナウイルスが拡大してあっという間に面会謝絶になってしまいました。ナースステーションまでは行けても、その前の部屋に入院している義母には会えませんでした。今までにない経験なので信じられませんでした。そこにいるのに顔も見られない!言葉も交わせない!何もできない! あんなに私の顔を見ると「お水を飲みたいと」ねだっていましたが、それもできず「どうしているのだろうか?」あまり水分をとってはいけないのですが、私だと断われないのを知っていて、顔を見ると「お水を飲みたい」とねだられ、だましながら2回に1回ぐらい水差しでお水を口に含ませましたが、そんな些細な事もできなく、病院にもご迷惑なので電話での問い合わせのみとなりました。3月の半ばになり、担当医の先生から突然に「治療が終わるので退院して家で面倒を見てください」と言われ、主人も私も慌てふためきました。車いすにも座れないのに家にどうやって連れて帰るのかと、途方に暮れて主治医の先生に相談したところ近くの療養型病院を教えてくださいました。その中の一つに大阪Iゾンタクラブメンバーさんがいて大変な便宜を図っていただきまして、転院できるようになりました。主人も私もほっとして、転院当日を待っておりました。夕方に転院の打ち合わせに行った時に看護師さんが「お会いしましたか」と言われたのであんなに一目だけでもとお願いしたのに、駄目だと言われたのが不思議に思いました。部屋を覗くとよく寝ており、「明日のお昼前に来てください。」と言われていましたので明日は会えると思い帰りました。

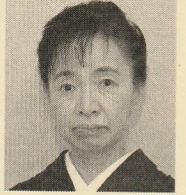
翌日8時まえに病院から、「呼吸がおかしいので直ぐに来てください」と電話がありました。急いで行きましたが意識はなく、今までにない呼吸の仕方、その呼吸音を聞いてただならぬことだと直ぐに気がつきました。その3時間後に義母伊藤幸子が静かに旅立ちました。先生に「眠るように痛みも無くて亡くなりました」と言われたのだけが救いでした。

コロナは色々怖くは思っていたのですが、最後まで面会できず、お別れもできないということを実際に味わって恐ろしさを実感致しました。身近な周りに感染した人がいなかったのも他人事のような感覚でピンときませんでした。この体験をする事で改めて恐怖感を感じました。

義母はとっても気丈夫で何一つこぼし話もなく過去の自慢話をするでもなく最後まで自立した日々を送っていました。これも長い間ゾンシャンとしての自覚があったことの証だと思います。私をゾンタに紹介して頂きましてありがとうございます。長い間お世話になりました。

Covid19感染症について思うこと

中川 友里



予期せぬできごとや原因不明の災い、解けない謎と出会った時、人々は、暗い情念や、ありもしない妄想に陥り、そしてそこから差別が生まれる。エイズ感染症や60数年前の水俣病が、どこか「いまの時代」につながる伏線となる歴史だったのではないかと考える。

コロナ禍のための生活支援として、当初の非常に限定された条件付き給付が破棄され、一律一人当たり10万円の給付が決まった。とはいえその実施は遅く日本の行政の驚くほどの脆弱ぶりも露呈している。また一律一人当たり10万と言いながら、世帯単位で世帯主に「受給権」があるという、さすがジェンダーギャップ指数121位の国である。かつ1回10万を受け取っただけで生き延びることができるわけではないので、金額そのものも十分とは言えるものではない。

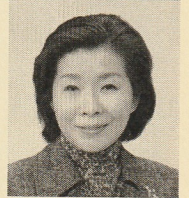
しかしながら、住民票のある人に一律10万というのは、この日本においては結構画期的ではないかと思う。それに加えて、今回もう一つ印象深いのは風俗関係者排除という選別が撤回されたことである。「同じように困っているのに差別するのは理不尽である」というシンプルで当たり前の主張が多い。さらに広島県知事が、公務員の受け取る給付を差し出させてコロナ対策に充てると言い出したが、批判が続出してこの案は撤回された。公務員は恵まれた特権的立場であり給付は「不要人」であるという前提で提案された公務員への給付不要論は世間に支持されはしなかったようである。この出来事も日本社会の空気が変化してきたことを示しているように思われる。

最後に女優の岡江久美子さんが新型コロナウイルス肺炎で急逝されたことについて、年齢も近くて、彼女の死を身近に感じているので、敢えて愚見を記載する。発病されてからの簡単な経過が報道されているが、気になるのは、発病から入院までの3日間ほどの期間、もう少し医療が何かできなかったかということ。なんとなくで良いので、不安を感じたら、こまめに病院に行くようにしましょう。

今の日本の状況で怖いことは、マスコミがよく報じている「医療崩壊」だけではない。感染を恐れるあまりの受診控えが起す悲劇や、必要なワクチンも受けないことによる重症感染症なども今回のコロナウイルス流行がもたらす今後の大きなマイナス面だと考えている。

コロナ禍自粛生活を振りかえる

田中 茂美



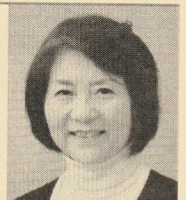
仕事柄、自粛生活はありませんでした。常と変わらず出勤し、患者様を診察し、往診し、産業医業務に出務し、雑多な所用を完遂し、毎日の日常に変化はありませんでした。ただ、朝、お迎えのタクシー運転手さんが会社都合で自宅待機となり、帰りの電車はガラスキで、道行く車の人も極めて少なく、患者様の来院も少ない日々でした。各施設の往診は外来者禁止で玄関での体温・消毒・(マスクは年中しています)チェックがあり、入所の患者様は家族の見舞いもイベントもない状態です。が、なぜか、皆元気で、差し入れや刺激が無いせいか糖尿病や高血圧・脂質異常・心疾患は改善し、認知の方々は「息子・娘の名も存在も忘れ」それなりに平穏です。産業医面談もリモートで安全衛生委員会も大画面のリモート・ウェブ会議に変化し無駄が無く効率的になり、退職者の職場復帰に至っては、テキトーな在宅ワークやテキトーな出勤でリハビリ勤務がなぜか極めて順調に完了し、職場の人間関係といじめで苦しんでいたメンタルヘルス疾患の人はそれなりに改善し、産業医クライアントの会社の中には、「特需でウハウハ」もあり不思議な現象を見た思いです。難病で6年前からテレワークをしている患者様は、「わたし、先端に行くワークスタイルだったのね」と満足気です。準備万端で臨んだ兵庫医大の講義も無人の大教室でオンライン授業の撮影で、学生の寝てるのか起きてるのかわからない姿も無く、自分の講義内容を反省する余地も無く、エネルギーが無駄に散りました。

私にとって、大丸松坂屋が存在しなくても、エステにいなくても、お気に入りのレストランや割烹が消滅しても、十分に体重増加しつつ生きていけることが確認でき、規則正しく・清い娛樂のない毎日も足早に過ぎてゆくことがわかりました。

以上、自粛生活での良かった点等を無理に探して列挙いたしました。

新型コロナウイルスによる自粛生活

辻 康子



我が家から車で10分ほどのところに住む娘家族には、小学3年と年少の2人の男の子がいます。小学校は2月末から5月末まで丸3ヶ月休み、保育園は4月半ばから医療従事者などの子供だけの特別保育となり、年少の孫は5月4週目までひと半月預けられなくなりました。2人の男の子が在宅では、娘夫婦のテレワークにも支障が出るかもしれないと、もう一人の娘家族と私達のところで交代で孫達を預かることになりました。

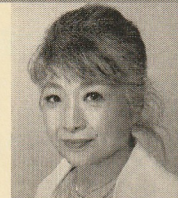
孫たちは朝8時過ぎに「おはよー」と元気にやってきて、私設保育園がはじまります。

夫は将棋やパソコンの相手にはじまり、庭で水やりなど。私は一緒にケーキを焼いたり、ボードゲームの相手、それに何より食事係。次は何をして遊ぶか、何を食べさせてあげようかと考え巡らしていました。私達はとても疲れましたが、孫たちは喜んで我が家にやってきました。5月25日から保育園が始まり、もうあのように孫が早朝から我が家にやって来ないとなると、今度はとても寂しくもあります。

暇な時にNHK BSなどで往年の名画を観るのがもう一つの楽しみでした。いま我が家の庭ではホトトギスとウグイスが美しい声で鳴き競っています。

Stay home

内藤 恵子



チャリティーコンサート中止が始まりで、その後どんどんコロナウィルが蔓延し stay home が続きました。週5日ほとんど、予定で埋まっていたのが、突然、出られなくなりました。毎朝犬と散歩、掃除洗濯、料理の毎日でした。空いた時間で、裁縫をしていました。気がついたら、コート、ジャケット、チュニック1枚、パンツ2枚、ワンピース3枚になっていました。断捨離も、45Lのごみ袋5個出し、棚や、引き出しの中も整理しました。家も、きりなくすることがありますね。こんな状況は、100年に1度来るらしいですね。身も心もリセットして、人生を楽しみましょう。

料理

久岡 眞佐代



昨年、関節リウマチを発症し、そろそろ寿命が近づいてきたなど観念しているところへ、今年は寿命どころか、日々命の危険にさらされるコロナとの共存生活が始まりました。感染拡大が続く中、いつも饒舌な夫も口数が少なくなり、夫婦の会話が消えていきました。そんなとき「相手がひとりで静かに考える時間と環境を作ってあげることも相手への思いやりになる」という記事に共感し、今の悲惨な社会状況下では会話しても気が紛れることはない、むしろ夫と距離を置いてそれぞれの時間を大切にすべきだと考え、外出自粛で増えた時間を料理に充てることにしました。

私は長年、家事を亡母に頼ってきたため料理が苦手でしたが、時間を気にしないでゆっくり料理を続けるうちに料理が好きになり、夜ベッドに入ってからも明日はどんな料理を作ろうかと思案しているうちに眠りつき、料理のおかげでコロナストレスを予防することができました。次は亡母が長年にわたって書き残した料理ノートの中から家族の評判が良かった思い出の家庭料理を再現しようと思っています。

コロナ自粛で思うこと

宮本 典子



今年の春は2月末から3月にかけて長崎県の五島で国際ツバキ会議が開かれる予定で、支援しているベトナムの耳の不自由な娘たちが刺繍したツバキ小物を持って参加するのを楽しみにしていた。開催国日本から、大阪市大のベトナム留学生 Lieuさんはじめ3報の学術報告がなされる予定で、それも楽しみだった。

ところが2月はじめ、準備委員会は we give up といってきた。直前に日本はちゃんとやっているから心配しないであらうという歓迎メールを送ったばかりだった。なんで？と言うほど危機感がまだなかった。でも私達のクラブもすぐ、3月8日のローズデイチャリティイベントをどうするかという決断を迫られることになった。

それを延期してよかったと思う。それから今日まで、緊急事態宣言も出て、私は完全に外出を自粛した。

思えばこれまで、夏休み以外このように一日中在宅して生活を見つめたことはなかったと思う。そして人生を考えたことも・・・。

時間はゆっくりと、そして早く、大きな塊として過ぎてゆき、その中で花は次つぎと咲き、いつの間にか紫陽花の季節になっている。我が家に来るものとしてはただスズメ。3月にはちょっと小型かな、という感じで親子連れらしいと見たが、6月の今は親と同じ大きさになって、しかし今も口移しで餌をねだっている。はじめは2〜3羽であったが今は20羽くらい。飛び石の上に餌を撒くと押し合いへし合いして時に喧嘩をし、譲り合い、賑やかに食べる。でも私の姿がチラとでも見ると一斉に羽音をたてて逃げてゆく。そして堀際の古いカイヅカの枝に止まって様子を見ている。私を覚えているのだろうか。手のひらよりも小さい彼ら、彼らひとりひとりにスナズリがあってこうして食べて生きていると思うと限りなく愛おしい。

以前から懸案であった終活、ひとつずつでも片付けようと2階から本を持ち出してきたが、また読んでしまいなかなか進まない、やっと送ったダンボール2箱は663円の値がついて寄付ができたといってきた。送料の方が高かった。

しかしこのような個人的平和は、多くの問題を抱えていた。個人商店の閉鎖によって仕事を失った人々に始まり、国境閉鎖による流通の停滞は、その国の人びとに大きな問題を引き起こす。第一今の私はささやかな年金暮らし、何も責任ある仕事を持たないからそのように呑気なことを言っておれるのだと反省しそしてこれは昔一度経験したな一と思った。

それは1945年敗戦の年、私は疎開していた朝鮮から帰って旧満州の奉天(今の瀋陽)にいた。外はロシア兵が闊歩していて見つければ何をされるかわからない。何をされても文句を言いにゆくとところもない。ひたすら家の中に隠れて学校にもゆかず、友達にも会わず、何ヶ月か過ごした。食べ物は以前飼っていたシェパード、この犬はりんご園の警備のためにもらわれてゆきもういかなかったが、その犬のためのエサが木箱に入れて玄関に保存してあった。砕いたとうもろこしに粟や小豆が混ざった家畜の餌だった。それを煮たおかゆが主体でたまに満人が売りにきたかぼちゃが唯一の野菜だった。かぼちゃはありったけ買ってサンルームに転がしてあった。こうしてソ連が撤退して中国軍に変わるまで2ヶ月余りは、今でいう自粛だった。

ノーベルがあのような発明ができたのはスエーデンの長い冬があったからだという。長い自粛は頭脳にどう影響するのだろうか。考える時間は十分あったけれど。

ベトナムからコロナ見舞いのメールが来た。返事を書こうと思ったら英語をすっかり忘れて何も書けなかった。

2019年度の活動

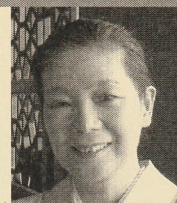
2019.6.1. ~ 2020.5.31

月	日	曜	例会場所	事業内容	委員会活動その他
2019					
6	13	木	リーガロイヤルホテル ベラコスタ	2019 年度活動計画審議 前年度決算報告及び今年度予算案審議	6/8 (土) 徳島 50 周年記念祝賀会 (6 名参加)
7	11	木	リーガロイヤルホテル ベラコスタ		各委員会 今年度活動計画
9	12	木	リーガロイヤルホテル ベラコスタ		
9	14	土	岸和田	だんじり祭り (6 名参加)	広報紙 48 号発行
10	3	木	リーガロイヤルホテル ベラコスタ	卓話 (神戸大学国際文化学術研究科教授 岩本和子先生) 「ベルギー王室の歴史とイメージ」	10/10 (木) ~ 10/12 (土) 地区大会 (小倉) (3 名参加)
11	14	木	リーガロイヤルホテル ベラコスタ	卓話 (関西学院大学人間福祉学部教授 桜井智恵子先生) 「子どもと地球の未来のために」	11/29 (金) 奉仕委員会施設訪問 「ゆら (愉快)」 訪問 (9 名参加)
12	7	土	忘年会	芦屋ベイコート中華 (10 名参加)	
2020					
1	9	木	新年会	リーガロイヤルホテルなかのしま (16 名参加)	
2	13	木	リーガロイヤルホテル ベラコスタ	指名委員選出 (辻・中塚・芳川)	
3	8	日	桂の間	チャリティーコンサート クロマチックハーモニカ木谷悦子→中止	3/8 ゾンタローズデーは新型コロナウイルス感染の影響で中止。
	12	木	リーガロイヤルホテル ベラコスタ	ローズデーイベントの反省会 (キャンセルの件) 次期役員・委員発表	広報紙 49 号発行
4	26	日	移動例会	ミホ美術館 (桜並木) + 信楽焼き→中止	
5	14	木	メール会議	1年間の活動報告、次年度に向けて 新旧役員交代 (一言挨拶文) ゾンタローズデー収支報告	5/23 (土) エリア3 エリアミーティング 大津ゾンタクラブ (京都ウエスティン都ホテル) →中止

ともだちの(わ)リレー・エッセイ

親友を偲びて

徳光 正子



人生には思いもかけないことが起こる。コロナ禍もそうだが、この数年私にも予測のできない事が幾つか訪れた。その一つは、親友の死である。大学時代、大阪出身の仲良し 5 人組が誕生した。趣味も性格も出身校も違うのに不思議な取り合わせだった。元より女同士で群れ集まる事など苦手な私だったが、なんとなく断る勇気もなく、5 人で交換日誌など廻したり、キャンパスを肩を並べて歩いていた、お揃いのマフラーを編んだり…。

卒業後は、それぞれの道に歩み一段落した頃、ご多間に漏れず再会を記念に、年に一度の旅を重ねた。旅の行き先一つなかなか決まらない我儘な私たちだったが、5 人ならではの楽しさもあり、「おばあさんになるまで続けようね」と笑い合ったものだ。その中の一人が、親友である。お互いの人生の悲しみ、喜びを分かち合い許し合える友だった。二人で多く語り合った。重たい人生の問題も、他愛もない話も。

よく二人で旅にも出た。なぜか秋桜が風に揺れていた軽井沢が思い出される。あの時、彼女はカシニョールの絵が気に入って買っていた。仕事に明け暮れていた私に「もう少し時間が取れないか」と首を長くして待ってくれた。私が辛い時には黙って手を差し伸べてくれた優しい友だった。二人とも大勢の人たちと接するのは本来苦手な所もあって、じっ

くり交際するタイプの友だった。

そんな友が突然の癌宣告を受けた。まさか信じられなかった。膵臓癌だったので手術後、一旦元気を取り戻したけれど帰らぬ人となった。人生の試練を経験してきた彼女は、病気になる前に「私は今とても幸福で、こんなに幸福でいいのか怖い」と言っていた。「感謝して喜んで受け止めればいいのよ」と返答したが、今も心に残っている。確かに晩年の彼女は何もかも恵まれて本当に幸せだったことを嬉しく思う。家族しか面会できない緩和ケア病棟に、許されて何度も足を運んで時間を共有した。お嬢さん(教子ちゃん)には、何かあれば私に尋ねれば良いと語っていたそうである。今月は友の誕生日。その日には教子ちゃんにおめでとうメールを入れる。彼女もお母さんの好きなモンブランで今年も家族でお祝いをしたと言う。少し余裕が出来た今なら、もっともっと旅行に出かけられたのに。もう彼女はいない。今でも亡き友に語りかけたくある時がある。一緒に笑ったり泣いたり。懐かしい思い出は尽きないけれど、残された私達は又今日も生きてゆく。

最近、読んだ本「たゆたえども沈まず」にとても心を打たれた。嵐が吹き荒れているときにどうしたらいいのか一小舟になればいい。強い風に身を任せて揺れていけばいい。そうすれば決して沈まない。度重なる氾濫で洪水や疫病をもたらしたセヌ。いかなる困難もかわしてみせよう。その思いと祈りを込めて、たゆたえども沈まず。昔、二人でパリに旅をした友を偲んで、私も「たゆたえども沈まず」生きてゆきたいと思う。

家族をリスペクト

三林 京子



ニュースで外国人労働者が日本に来られなくなり、収穫出来るかどうか分からないので、種を蒔けないで困っている農家の話を聞きました。仕事がなくなって困っている人が山ほどいるのに、何とかならないのかしら?と思いましたが、これは秋に食糧不足が起こるかもしれないと感じて、とりあえず苗を買ってきて、プランターで茄子や胡瓜等の野菜を育て始めました。日々の手入れは大変です。しかしながら、収穫出来た喜びは格別で、朝から得も言われぬ充実感を味わわせてもらえます。朝採りのツヤツヤした野菜を調理していると、何故かピエール君のお母さんを思い出しました。

以前、数人のグループでフランスのワイナリー見学をした帰り、ふいにピエール君のお家にお邪魔することになったのです。彼は大阪にある三ツ星のフレンチレストランで数年働いて、リヨンの本店に帰って行ったのですが、「ピエール君がワイナリーを案内してくれるから行かないか」と知人のお誘いで参加出来、本場のフレンチとワインを堪能させていただいたのです。ワイナリーからホテルへ帰る途中、「僕の家がすぐ近くなので、お茶でもいかがですか?」とお誘いを受け、皆で伺いました。可愛いお母さんと男前のお父さんが出迎えて下さり、お家の中があんまり美しいので、あらかじめ予定してくれていたのかとお聞きしたら、「ノンノン」とニコニコ笑って、取って置きのお茶だとユーモアたっぷりに、日本から持ち帰った極上の玉露を入れてくださったのです。お母さんが焼かれたどこか懐かしい味の素朴なビスケットをいただいた時は、伺った全員が安心して、心がほっこりしたのを今でも覚えています。家の中はピカピカに磨きあげられて、特に台所は見事に片付いていました。銅鍋がピッカピカでインテリアの飾りのように壁にかけてあります。「あのお鍋は使うのですか?」と質問したら「もちろん!」と仰るではありませんか。ピエール君は家ではお料理をしないと、ちょっと寂しそうですが、全てをお母さんが手作りされるようでした。リビングには素敵なテーブルセンター、クッション、窓辺のカーテン、どれを見てもお洒落なのです。ピエール君とお父さんの着ている相当複雑な模様のセーターも、もちろんご自分の洋服は100%だそうで、紳士物のスーツやワイシャツは作れないけど、他のものは全て作られるとの事です。「それが私の生き甲斐だから!この近所の人は皆そうよ。どの家も素敵でしょう」と。そうなんです、来る途中に見たお宅がどこも絵に描いたように素敵なお家ばかりでした。日本と大きく違うのは、それぞれの家に個性があって、同じデザインの家がない事です。それでいて、町全体が美しく調和しているのです。こじんまりとした、手入れの行き届いたお宅ばかりで、庭や窓が絵本を見ているように綺麗でした。

居心地の良いお部屋でピエール君に通訳をしてもらいながら、長時間楽しませていただいた事が今でも懐かしく思い出されます。



日本で、家族の為に何かを作るのが生き甲斐だと、目をキラキラさせて言うお母さんはどれくらいいるかしら?手縫い、手編み、手作りごはん、昔は当たり前な事が今では特別な事になってやしまいか?当時そんな事感じておりましたが、コロナ感染予防で外出できなくて、家でごはんを作って家族で食べる。この何でもない普通の暮らし方を見直し、愉しみ、又新鮮に感じ、家族をリスペクトする心が芽生えると、医療従事者に対しても同じ気持ちを持って、自分さえ満足出来ればいいという行動が出来なくなる筈だと。

日本は一刻も早く自給率100%を目指さないとダメだなあ・・・そんな事を感じながら、今年はプランターの野菜を育てるひと夏になりそうです。

編集後記

昨年末から中国武漢で発生したCOVID 19が瞬く間に全世界に広まり、様々な分野で多くの障害を生じてきました。3月8日ローズデーチャリティイベント中止、4月26日移動例会中止、5月23日エリアミーティング中止。5月の例会はメール例会になりました。7月シカゴで予定されていた100周年記念世界大会もWEB大会となり、それぞれの報告を広報紙に予定していましたが、没になってしまいました。急遽、会員にコロナ自粛期間中に思ったこと、していたこと等の短文を募集しましたところ多くの原稿を頂き、無事広報紙を発行できるようになりました。感謝!

堀 知子